



こんにちは！株式会社のぐちです！8月です。猛暑日が続いています。こんなときはひんやりスイーツが良いですね。先日「バナナマンの早起きせつかくグルメ」で、とちおとめを使ったかき氷シロップが紹介されました。「シロップというよりいちごそのものだね！」の感想に、思わず「食べた〜い！」普段はかき氷よりアイスクリーム派ですが、この暑さではやっぱりかき氷。「夏のアイスクリーム・かき氷調査」によると、気温30度を超えるとかき氷を食べたい人が3割を超え、気温34度で逆転するそうです。人の嗜好は気温で変化する！ちなみにアイスクリーム好きが多い都道府県は、岩手県、かき氷好きが多いのは熊本県という情報もを見つけました。それでは皆さま今月も明るく元気に宜しくお願ひ致しま〜す。

株式会社のぐち



8月の歳時記

「浴衣（ゆかた）」

夏真っ盛り。夏祭り、盆踊り、花火大会などが行なわれ、色とりどりの浴衣を着た人もたくさん行き交っています。浴衣の始まりは平安時代の「湯帷子（ゆかたびら）」というのは良く知られています。その頃の入浴は蒸し風呂だったので、やけどをしないため、裸を隠すため、汗をとるためなどで使われていました。また、綿が高級品だったため麻の素材が使われていました。室町時代末期になると、入浴を楽しむという目的で作られた「湯屋」（現代でいう銭湯）が登場します。そこから江戸時代後期にかけて、この湯屋が普及し、庶民も手軽にお風呂を楽しめるようになりました。綿の栽培が増え、素材も麻から木綿へと変わっていきます。江戸時代の間に、湯上り衣から外出着としても着用されるように進化していきます。さらに本藍染めという技法により、様々なデザインの浴衣が生まれ、浴衣を着る目的にファッションを楽しむことが加わっていったのです。やがて明治時代には夏の普段着として定着。注染（ちゅうせん）という染色方法が発明され、大量生産が可能になりました。そして現代。着付け・ヘアセットサービスつきの「レンタル浴衣」などもあり、気軽に浴衣を楽しめるようになりました。浴衣姿でチョットお出かけなんて素敵ですね。

では皆さま、今月も元気よく笑顔で伺いますので、笑顔でむかえて下さいね。

これいいじゃん

便利グッズ研究会からのお知らせ

私たち「便利グッズ研究会」では独断と偏見で選び抜いた便利グッズを皆様にご紹介することを生きがいとしております。ハイ！今回ご紹介するのは、

「ラベルライター ピータッチ」

これからのラベルはスマホで作る。暮らしを楽しむラベルライター登場。キーボードがないシンプルな本体デザイン。スマホアプリを使うことでいつでもどこでもラベル編集が可能です。アプリ内の「ラベル活用法」を使用することでラベルイメージが想起しやすく、スマホだから印刷前のプレビューが容易です。アイデア次第で自分らしくラベリングが楽しめます。可愛い文字がいっぱい！素敵なテープもいっぱい！絵文字や記号もいっぱい！ラベルを気軽にデザインできる「P-TOUCH CUBE」があれば、お気に入りのモノたちを、より素敵に、より自分らしく彩ることができます。ラベリングの楽しさは、ここまで進化しました。専用アプリには整理収納術など、ラベル作りがもっと楽しくなるお役立ち情報もいっぱいです。整理収納、書類整理、ネーミング、ギフトラッピングといろいろ使えて「これいいじゃん」ってわけ。ぜひ皆さまも試してみてくださいね。



標準
小売価格
10,930 円
(税別)
(アダプター付)

スタッフ登場

ここだけの話ですが、6月末梅雨空真っ盛りの中、東北を車で旅してきました。ほとんど雨が曇りの予想の中、まあそのうち晴れるでしょうと楽観していましたが、案の定降られました。それでも、目的地では何か傘もささずに見学できました。（普段の行ないが…）旅の目的は秋田の由里本荘の赤田の大仏&秋田県立美術館の藤田嗣二の大壁画。自分の中では岩ガキと味噌たんぽを食することでした。だって、美味しいものとの出会いが一番印象になると思いませんか。しかし、この中でクリアできたのは赤田の大仏のみ。時間の関係や、朝食バイキングを食べ過ぎて、食べられなかったことが現実。先読み能力なし！やれやれです…

経理・渡邊でした。

